

医療・福祉経営の新時代と人財を創る

# VisionとStrategy 戦略

2022

8

巻頭インタビュー

介護報酬改定の方向性は  
エビデンスに基づく成果主義

古元 重和 氏

厚生労働省 老健局  
老人保健課 課長(医学博士)

特集

訪問看護特集 Part2

## 訪問看護ステーションの経営管理と 多機能化の推進を探る

～管理者・経営者の経営管理スキル育成と訪問看護ステーションの多機能化の実際～

医療福祉経営最前線

谷田ヘルスケアグループ

特定医療法人谷田会、社会福祉法人綾友会、医療法人興和会  
(熊本県上益城郡／下益城郡)



HMSセミナー集

保健・医療・福祉サービス研究会

# 訪問看護＋定期巡回で 1日に複数回訪問する サービス提供体制を確立

日本の訪問看護ステーション経営リーダーのひとり、宮崎和加子氏が山梨県北杜市で看護・介護事業を始めて5年が経過した。重度者の在宅ケアは看護だけでも介護だけでも対応できず、2つの機能を合体させる必要があると宮崎氏は判断。その実践内容を語った。



一般社団法人だんだん会  
理事長

宮崎和加子 氏

Miyazaki Wakako

上げました。

事業のテーマは「地域に求められるたくましく優れたプロの看護介護リハビリ集団づくり」で、自宅でも、グループホームでも、のちにつくるシェアホームにおいても要介護者が活気づき、最期まで北杜市に住み続けられるようにチームで支援していきます。そして二番目のテーマは「住民が主体的に自分の『まちづくり』をする」こと。この二つが私にとって還暦からの二大テーマです。

■現在、どのような事業を行っているのでしょうか。

宮崎 収益事業は「グループホームわいわい白州（認知症高齢者グループホーム）」「わがままハウス山吹（多機能型シェアハウス事業）、地域看護センターあんあん」（訪問看護ステーション）、「定期巡回回てくてく24」（定期巡回サービス）、「訪問介護にここ」（訪問介護事業）、「オレンジデイはかほか」（認知症対応型通所介護事業・単独型）、「リハ特化半日デイのるるん」（通所介護事業）。さらに地域共生事業として「オレンジサロン白州・長坂」（認知症カフェ）、「すっきりヨガ」を展開しています。

2021年度に初めて単年度黒字を達成し、ようやく皆さんに報告できる収支になってホッとしました（笑）。

■訪問看護ステーションは何名で運営しているのでしょうか。

宮崎 看護職が7人（常勤5人、非常勤2人）で、さらにPTが2人です。訪問看護ステーションをつくるときに、すでに地域にステーションがあったので、競合しないように、できるだけ重度の方を受け入れ、看取りをたくさん行う方針を表明し受け入れています。この前担当したガイン末期の方は、退院して12時間後に亡くなりました。運営を始めて5年が経過しましたが、最期の時期に満足して亡くられる方も多く、さらにリハビリによって難病の方が意識を取り戻したなど看護ならではの多様な仕事をしています。

訪問看護は介護する家族や生活をサポートする方の存在など、家で暮らせる条件が整っている方を対象にします。この条件を整えるために、生活を支援するサービスとして始めたのが定期巡回です。定期巡回によって介護と看護が連携して1日に3回でも4回でも訪問して、生活

■宮崎理事長のご経歴とだんだん会設立の経緯について教えてください。

宮崎 私は北杜市に移住する前の40年間、訪問看護ステーション所長や全国訪問看護事業協会事務局長などのキャリアを経て、訪問看護の実践

普及・制度化、グループホーム設立などを通じて、認知症の人の生きることへの支援、地域づくりに取り組んできました。

法人設立は2016年1月で、2017年4月から事業を開始して5年が経ちました。事業を始めたきっかけは私の移住です。移住先の北杜市は介護や看護の提供量が多くなかったのですが、北杜を最後まで暮らし続けられる地域にしたい。また、すばらしい理事・監事が集まったことで、北杜市がグループホームを公募したことをきっかけに「グループホームわいわい白州」を立ち

をサポートすることによって自宅ドクターの往診や訪問看護、リハビリを受けられるという状況になります。これが地域で生きていくための基盤になるのです。

■週に2〜3回の訪問では重度者の在宅生活は支えられませぬ。

宮崎 介護だけで支援できることは限られているため介護職中心の訪問介護では不十分だと思っています。看護と一体となつて、ご家族がいなくても重度の方を家で看られる体制づくりが必要であることを私は東京で実感していたので、北杜市でやらなければならぬと考えました。鍵は1日複数回訪問することと、訪問介護と違って規制が緩やかでサポートしやすい定期巡回の機能を活用することです。

ただ、住宅密集地域なら効率的に廻れるのですが、北杜市は山梨県で最も面積の広い自治体なので、私も職員は1日に100キロメートルぐらい車で走っています。しかも同じ報酬で看護師を中心に動いているので、経営面ではかなり厳しいのが実情です。でも、このサービスがないと地域で暮らし続けられないので、地域にとっては宝だと思いま

す。訪問看護と訪問介護が別々ではこの体制をつくれないので、一体的に運営したほうがよいのです。この体制で看取りまでしますし、車椅子の移乗のためだけに訪問することもあります。

■だんだん会における看護職の役割や教育について教えていただけますか。

宮崎 看護職が受けた教育は、身体のこと、心のこと、人間のあり方など多様です。それからプロ意識を強く持つという教育も受けますが、プロとは何かと言えば、私は川嶋みどり先生（日本赤十字看護大学名誉教授）から「プロは生涯勉強し続けなければならず、勉強が嫌な人は辞めなければいい。勉強は自分のお金と時間がやれば学びは10倍多い」と教えていただきました。こうした教えのもとに看護師になった人は多く、しかも厳しい状況に置かれている患者さんや利用者さんに接するので、人間力が高まっていきます。その人間力でコロナ対策も保たれていると思います。

■だんだん会のお聞かせください。

宮崎 設立して今年で6年目に入ることから「この先、どうするのか？」と皆さんに聞かれるのですが、今年度の重点課題は「住民の要望に基づいた事業の可能性を探る」「住民主体のつながりづくりへの協力」「当法人の次世代育成に着手する」の3つです。1つ目の課題ではまだ決まっていないのですが、「わがままハウス山吹」の第2弾のような施設が必要と感じています。

北杜市に移住された多くの方が終活に入っていて、このままでは20年間暮らして来た家を維持できないという問題に直面し、今の「わがままハウス」利用者の一歩手前の健康状態を対象にした施設をつくってほしいという要望が非常に多く寄せられました。「まだまだ生活を楽しまたいが、不安で

仕方がない」。見守ってくれたり、いつでもご飯をつくってくれる人がいて、景色が良く、車を使わないで買い物に行けるといふ要望を満たせる施設があつたらいいと考えています。

この要望を満たせる施設をつくるには土地が必要です。一部屋30〜50平米で15〜20室のコテージ風の建物をつくりたいです。ロケーションの条件としては、近くにスーパー、郵便局、温泉などがあり、富士山や南アルプス、八ヶ岳も見える場所です。そして、その施設には、併設のボランティア室があり、多くのボランティアが集まれるような拠点になればと考えています。

■「住民主体のつながりづくりへの協力」「当法人の次世代育成に着手する」についてはいかがでしょうか。

宮崎 「住民主体のつながりづくりへの協力」では、住民たちの主体的な活動が継続するように裏から支えるのですが、すでに新しい動きが始まりました。「当法人の次世代育成に着手する」は最も重要な課題です。私は66歳なので、いつまで元気に働けるかは分かりません。現在の職員の中から次世代の経営を担ってくれる人を育成する事業に着手します。